

令和2年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業 【実践事例レポート】

- 1 報告地区 : 渡島地区
- 2 事例報告学校名 : 八雲町立熊石小学校
- 3 報告者職・氏名 : 校長 堀切川 治
- 4 キーワード : 小規模校の強み（少人数指導）を生かして

1 はじめに

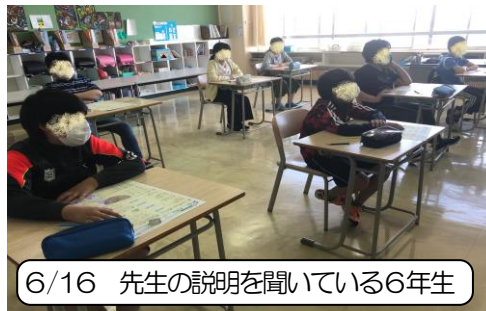
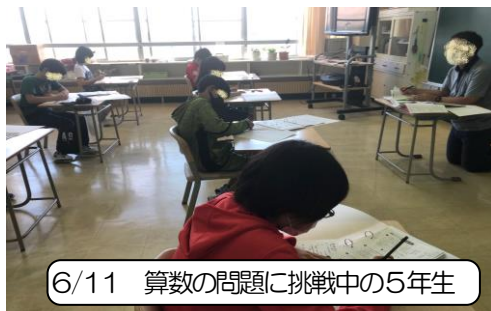
熊石小学校は、日本海に面して、豊かな海と山林に囲まれた自然豊かな場所にある。夏は、磯遊びや釣りなど、冬は、スキーや温泉などのアウトドアスポーツを楽しむことができる。さらに、自然の地形を生かした熊石青少年旅行村などが校区内にあり、子どもたちの野外活動や自然体験学習のフィールドとして最適な地となっている。

本校が所在する八雲町熊石地区は、旧熊石町と八雲町が平成17年（2005年）支庁を越えて合併した。さらに、平成29年に熊石地区の小学校4校が統合したため、本校校区は北側の関内地区から南側の折戸地区まで約17kmの長さがある。そのため、登下校は、スクールバスを運行している。在籍児童数は令和2年度51名。少ない児童数や教育環境等を強みにして取り組んでいることを紹介する。

2 学力向上の取組

(1) 放課後学習の実施

本校は、スクールバスに乗車する児童が7割以上在籍していることから、下校時のスクールバスの出発時刻をやや遅めに設定し、2年生以上の児童を対象に、6時間授業の日に限って20分間程度の放課後学習を実施した。学習内容は、授業内容定着のための問題や発展的な内容を取り入れた。今年度は、新型コロナウイルス感染症で臨時休業になった昨年度及び今年度の未履修部分の学習も取り扱った。全教職員で学習内容等について確認し、計画的に学習を行った。



(2) 家庭学習ノートの掲示

発達段階に応じて求められる家庭学習をあらかじめ教務部が提案し、共通理解を図った上で、模範となる家庭学習を児童玄関前に掲示した。実際にどのような家庭学習がよいのか見ることができ、他の児童の参考になった。また、掲示された児童は、自信を付けて、より意欲的に家庭学習を進めることができた。

6/23 全校で体育教室 まずは準備体操

3 体力向上の取組

(1) 体育教室の実施

全校児童が対象で、毎週火・木曜日の中休みの時間に実施。運動能力の向上が目的。

内容は、短距離走、時間走、サーキットトレーニング、短縄跳び、軽スポーツ等を実施。



(2) 「どさん子元気アップチャレンジ (全道版)」の取組
体育の授業の導入時にウォーミングアップとして実施。

(3) 新体力テストの実施
全学年2回実施 (今年度は7月と10月)。個別の目標を立て、その成果を記録。児童個々の経年変化を提示し、意欲を高め、個別の目標の設定と記録の更新への挑戦。

(4) 全校体育の実施
全校一斉の体育授業の実施 (水泳・マラソン・スキー)。全校で行うことに当たり、全教職員で能力別に分担した効率的な授業の実施。また、担任をしていない児童にかかわることによる児童理解の情報共有化。
※今年度の「水泳」「マラソン」は、新型コロナウイルス感染症対応等のため中止。

4 全校道徳授業の実施

縦割り班を編成し、異学年グループの中で学ぶことを通して、異なる立場の思いや考え方を知り、道徳的諸価値について多面的・多角的に考えようとする態度を育てることを目的とした。

各グループに教員を配置し、担任ではない教員の支援で授業を進めた。異学年の考え方や担任以外の教員のサポートがあり、子どもにとっては新鮮で授業に集中する様子が見られた。

今年度は、4回計画し、広い体育館で換気をした状態で、子どもたちの距離を取って実施した。小規模校ならではの取組として充実した時間にしていきたい。

昨年度の全校道徳の様子より



「困っている人がいたら…?」



異学年グループで話し合っている場面

5 昔の遊び集会の実施

地域の高齢者団体の方々を講師に招き、昔の遊びに親しむことを通して、地域の伝統を守り、郷土を大切にする心を育むことを目的として総合的な学習の時間で実施した。(今年度は、新型コロナウイルス感染症対応のため中止)



昨年度のビー玉を使った昔の遊び集会の様子

6 おわりに

昨年度末からの新型コロナウイルス感染症対応のため、教育活動が大きな影響を受けたことは、どの学校においても同じである。今回紹介した本校の取組は、昨年度に比べて取組を強化したのもあれば、縮小や中止したものもある。

本校は、都市部から距離があり、都市部ならではの教育資源は乏しいが、豊かな自然に囲まれ、少人数指導がいきわたる環境を強みとして教育活動を実施している。今後も、地域性を重視した教育実践を積み上げることを通して、児童一人一人が健やかに成長し、持続可能な社会のつくり手としての力を身に付け、地域を誇りに思い支える社会人となるよう、「生きる力」の育成に全職員一丸となって取り組みたい。